

平成17年7月7~9日 地域再生で活性化をめざす

北海道深川市・伊達市・白老町

総務常任委員会



深川市は、北海道のほぼ中央部に位置し、農業を基幹産業とする市で、地域活性化のための地域再生計画の認定を受け、マルチメディアセンターを核とした情報化を進めている。

野幌森林公園は札幌市近郊にあり面積2千余haの広大な公園で、道で管理しており職員9人の配置と、委託費約7千4百万円をかけている。公園には、北海道百年記念塔・開拓記念館・自然ふれあい交流館などがあり、道民の憩いの場となっている。

伊達市は「北の湘南」と呼ばれ、少子高齢化社会に対応した豊かなまちづくりを地域再生計画として進めており、ニーズに応じた住環境・安心ハウス・優良田園住宅・配食などのサービスを進めている。

白老町のポロト自然休養林では、観光ボランティアガイドに説明してもらい、遊歩百選に入っている湖の外周を散策できる施設には年間2万人が自然と触れ合っている。

いずれも自然を取り入れながら個性的にやろうとの意欲を感じた。

- 〈参加者〉
- | | |
|------|------|
| 委員長 | 村田 昭 |
| 副委員長 | 桑原米蔵 |
| 委員 | 藤井忠則 |
| 〃 | 福田吉彌 |
| 〃 | 吉川毅一 |
| 〃 | 佐伯靖彦 |

平成17年7月11~13日 自然との共生

「ふるさと自然塾」

岩手県玉山村・衣川村

文教厚生常任委員会

岩手県玉山村の特別養護老人ホーム「すずらんガーデン」はハード面で優れた施設でありその先進地の視察を行った。

人口13,824人、世帯数4,253戸の村で立山町の1/2以下である。老人のプライバシー保護とユニットケア導入で、介護面でも進んだ取り組みをしている施設であり、その内容について施設見学も含め説明を受けた。

主な取り組みとして、

- 一、寝たきり防止の対応：経営栄養の方でも食事時間はもとより、日中はできるだけリビングで過ごして頂くようにしている。
- 二、拘束処置の摘要事例：胃ろうチューブ除去及び自傷行為・ろう便行為が見られる方は、介護着またはミトンを使用している。

職員定数は77・5名で平成16年度事業収入は4億4千

万円で4千万円の差益があったと説明があった。すずらんガーデンの特徴は、経営者が医師であり万一の時には即、対応できるようにしている。

次に星空日本一の岩手県衣川村の廃校活用「衣川ふるさと自然塾」の視察を行った。人口5,125人で世帯数1,402戸、面積1,635㎡当初予算53億円の村である。

平成11年から13年にかけて、旧大森分校を自然体験ハウスに改修するなど、「自然との共生」だけでなく「暮しに視点」をおき、スローライフ、自然と人間のくらしを考える「ふるさと自然塾」が整う。

昨年度、宿泊・日帰り利用者は8,872人。村の中心部から12㎞程離れた周囲を広葉樹の森に囲まれたなかに作られており、忙しい日常から

離れ、時には心と体を人里離れた自然の中に置くのはこれからの現代社会において大切なことだと思った。立山町に於いてもこのような素晴らしい「ふるさと自然塾」が一日も早くできるようお願いを新たにしました。

- 〈参加者〉
- | | |
|------|------|
| 委員長 | 米田俊信 |
| 副委員長 | 町田信子 |
| 委員 | 窪田一誠 |
| 〃 | 村井隆夫 |
| 〃 | 土肥洋之 |
| 〃 | 岡本宣宏 |



平成17年8月25~26日 親しまれる議会だよりをめざして

東京都千代田区 シェーンバツハ砂防会館

議会広報特別委員会

8月25・26日の2日間、委員6名が町村議会広報研修会に参加した。

昨年の研修会と違って、大学教授の「議会の活性化と広報」の題で講義を受け、議会広報の役割と意義について認識を新たにした。

また、群馬県草津町長の「町づくりのヒント」の講演では、東の温泉ナンバーワンという町の泉質主義を貫き、「仲良く」ということを徹底しようという考え方はよく理解できた。

観光に対する考えやもつたないという点についても話されたが、立山町の取り組み方と似ている点も多く、たいへん参考になった。

なお、たてやま議会だより第19号をクリニックしていただいた。表紙の組写真は評価されたが、記事のまとめ方や見出しのつけ方など、私たちの気付かない点について指摘を受けたので、今後の参考となった。

今回の研修会に参加して得たことを活かして、町民に親しんでもらえる議会広報づくりに努めていきたい。

- 〈参加者〉
- | | |
|------|------|
| 委員長 | 舟橋貴之 |
| 副委員長 | 町田信子 |
| 委員 | 坂井立朗 |
| 〃 | 窪田一誠 |
| 〃 | 村田 昭 |
| 〃 | 米田俊信 |



紫外線で処理する浄化センター

岐阜県下呂市金山町

下水道事業対策特別委員会

現在建設中の千垣・芦峠浄化センターは、富山県内では初めての好気性ろ床法を取り入れたものであり、丸野浄化センターがその先例であることから視察した。

この好気性ろ床法とは、消毒方法が塩素の代わりに紫外線を使用していることであり、大きな特徴は、

- 一、3床内での浄化工程・逆洗工程の自動化・汚泥濃度管理が不要なため維持管理が容易である。
- 二、3床内での反応時間が短く最終沈殿池が不要なので設置面積が小さくてよい。
- 三、流入水の変動に対しても安定した処理を行える。

金山町は平成16年3月に4町1村が新設合併したことにより下呂市金山町となった。面積851平方キロメートル人口3万9千人で、91%が山林である。下水道事業に力を入れ、市全体の普及率は、計画に対して約50%で、農業集落排水では、80%である。供用開始に対しての普及戸



数の割合は約70%であり、普及率アップに様々な融資や補助制度があった。

立山町は今盛んに下水道の整備をしているところであり下呂市の良い所を大いに取り入れ、より良い生活環境をつくりたいと思った。

- 〈参加者〉
- | | |
|------|------|
| 委員長 | 桑原米蔵 |
| 副委員長 | 村井隆夫 |
| 委員 | 吉川毅一 |
| 〃 | 高嶋清光 |
| 〃 | 土肥洋之 |
| 〃 | 佐伯靖彦 |

行政視察報告